

放射線科

放射線診断科

病棟 西病棟 4F

外来 外来診療棟C 1F 連絡先 022-717-7732(外来) 022-717-7696(病棟)

ホームページ http://www.radiol.med.tohoku.ac.jp/Diagnostic_radiology/



科長
高瀬 圭 教授

主な対象疾患

●画像診断の対象となる疾患全般

●各種のインターベンショナル・ラジオロジー (IVR) 対象となる疾患全般

例：肝細胞癌、四肢の閉塞性動脈硬化症、内臓動脈瘤、体幹部(肺・腎等)・肺・内臓・四肢の動静脈奇形、難治性喀血、椎体圧迫骨折、各種生検、小児先天性心疾患、小径腎癌、各種腫瘍の塞栓術、動注療法、外傷、出血、静脈サンプリング、etc

診療内容

最新の医療機器を用いた画像診断業務と、血管造影や超音波等の画像技術を用いて患者さんの治療を行うインターベンショナル・ラジオロジー (IVR) を行っています。

画像診断業務は、単に画像を読むことではありません。物理的エネルギーを付与しながら行われる検査故、患者さん毎に必要なとされている医学的情報を個別判断しながら、放射線被曝や造影剤・磁場の負担を必要最低限に抑え、最適な撮像法を考えることが大きな部分を占めます。放射線診断医は、放射線技師との協力で検査の指示、管理、および最適化を行っています。CT、MRI、一般核医学検査およびPET-CTは、全てを当科が管理・読影しており、年間約7万2千件の画像診断を行っています。依頼に応じて単純X線撮影の読影、超音波検査施行をしています。脳神経、胸部、乳腺、腹部、泌尿器、婦人科、心血管、骨軟部、小児、核医学、等のサブスペシャリティを揃え、各診療科との密接なカンファレンスを通じて診療しています。

IVRは、経動脈的な腫瘍や出血の塞栓術、動静脈奇形や内臓等の動脈瘤塞栓術、腎動脈や四肢末梢、透析シャント等の血管狭窄の血管形成術、頭頸部癌の超選択的抗癌剤動注療法、先天性心疾患等、全身のIVRを行っています。副腎静脈サンプリングは世界一の実績があります。CTガイド下手技では、生検(肺、骨軟部等)、膿瘍ドレナージ、ラジオ波焼灼術に加え、東北で唯一となる腎癌の凍結療法を行っています。いずれも数mmの傷で施行できる低侵襲な治療です。救急IVRは、365日体制で、外傷、産後出血、術後出血、消化管出血等に対応しています。

診療体制

CT：320列2台、128列2台のMDCTが稼働し、1台は2管球装置で高時間分解能検査が可能。MRI：全身用3T(テスラ)超高磁場MRI 4台、1.5T全身用高磁場1台、四肢用1.5T1台の計6台が稼働。PET・核医学：PET/CT 3台、SPECT/CT装置を含めた4台のガンマカメラが稼働。病一病連携によるPET検査、放射性同位元素による骨転移等の治療にも対応。IVR:IVR-CTを含む4台の血管造影装置およびハイブリッド手術室・救急室にて、緊急を含めたIVRを施行。

上記体制にて、年間7万2千件の画像診断・IVR、紹介外来・病棟診療、各科からの画像診断コンサルト業務を行っています。

得意分野

画像診断の各モダリティ、臓器をサブスペシャリティとする放射線診断医チームにより、隙の無い全領域の画像診断を最新の技術と知識で行っていることが当科の特徴です。当院の各診療科の高いレベルに応えるべく、ワークステーションによる3次元画像処理と読影システムを駆使した詳細な読影を行っております。依頼科との多数の定期的カンファレンスでのコミュニケーションを基に、核医学や超音波も含め、総合的実践的な画像診断診療をしています。IVRもほぼ全領域に対応し、高難度IVRは大学病院に症例を集約しています。緊急IVRには、各科との協力体制で24時間365日対応です。CTガイド下の腎癌凍結療法は東北では唯一の施行可能施設です。



Philips 3T MRI



Siemens 3T MRI



インターベンショナル・ラジオロジー (IVR-CT室)

ご紹介いただく際の留意事項

■完全予約制です。ご紹介いただく場合には地域医療連携センターを介して外来予約をあらかじめお取りください。

■カテーテル等を用いた血管内治療を含めたインターベンショナル・ラジオロジー (IVR) は放射線診断科で担当しています。

*腫瘍等に対する放射線照射療法は放射線治療科です。

■IVR治療適応の有無や方法を検討するために、参考となる画像データをご紹介の時点、または受診時にDICOM形式のCDにてお送りいただければ幸いです。